

廃棄物に関する市民会議

武蔵野市廃棄物に関する市民会議（以下「ごみ市民会議」という。）は、「武蔵野市廃棄物の抑制・再利用と適正処理及びまちの美化に関する条例」に基づき設置されるもので、資源の再利用、廃棄物の発生抑制・減量、まちの美化に関する基本的事項について学識経験者、市民、事業者、行政が協議する場です。今期の第4期ごみ市民会議は、平成19年1月31日に設置され、16名の委員が委嘱されました。（任期2年）

また、平成19年度に計画期間が終了する現行の「一般廃棄物処理基本計画」（ごみ処理基本計画）の改定について、市長からの諮問を受け、さらなる循環型社会の推進に向けて、ごみの発生・排出抑制、資源化の推進など、市民・事業者・行政が取り組むべき新たな基本方針、計画目標や施策などについて、検討を行い、中間報告、パブリックコメントを経て、平成20年2月に市長へ最終答申を行いました。

市では、このごみ市民会議からの最終答申に基づき、平成20年3月、新たに一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定しました。

・廃棄物に関する市民会議委員一覧（敬称略） 委員長 副委員長

氏名	備考
大江 宏	亜細亜大学経営学部教授
小島 紀徳	成蹊大学理工学部教授
杉本 安雄	クリーンセンター運営協議会会長
西園寺美希子	武蔵野市環境美化推進員支部長
広江 詮	クリーンむさしのを推進する会会長
山崎 祐子	武蔵野市コミュニティ研究連絡会副会長
五十嵐 康	公募委員
今木 仁恵	公募委員
齋藤 法雄	公募委員
鈴木 寔男	公募委員
内山 裕基	横河電機(株) 総務部総務グループ課長
及川 眞喜夫	(株)伊勢丹吉祥寺店総務部長
金子 和雄	武蔵野市商店会連合会会長
山崎 正貴	武蔵野美装(株)代表取締役
白井 龍男	武蔵野市立大野田小学校校長
五十嵐 修 (H19. 4. 1~)	武蔵野市環境生活部長
長澤 博暁 (~H19. 3.31)	

ごみ減量協議会

ごみ減量協議会は、平成19年9月に発足し、市民、事業者および市が協働で、「武蔵野ごみチャレンジ700グラム」の達成を図ることを目的としています。将来にわたり持続可能な環境負荷の少ない省資源型の都市を目指す活動を推進するとともに、ごみ減量に向けた具体的な取り組みを 生ごみの減量、古紙の削減、容器の削減について3グループに分かれ検討しています。平成20年8月に第1期提言書が、平成21年8月に第2期提言書が提出されました。

・第三期ごみ減量協議会委員一覧（敬称略） 委員長 副委員長

氏名	備考
藤本 厚	公募市民
秋山 敏晴	公募市民
花俣 延博	"元町通り振興組合花俣眼鏡店"
川添 勇二	"株式会社グルメシティ関東総務人事部"
保母 錠治	"株式会社京王ストア店舗運営部業務管理担当"
濱中 洋子	"セブンイレブン武蔵野関前4丁目店長"
金子 健一	"ASA三鷹北口有限会社鷹美社代表取締役"
加藤 慎次郎	"株式会社加藤商事武蔵野支店常務取締役支店長"
石川 洋一	第2期減量協議会委員(紙部会)
竹下 登	第2期減量協議会委員(生ごみ部会)
白石 ケイ子	第2期減量協議会委員(容器部会)
西園寺 美希子	クリーンむさしのを推進する会推薦者
西上原 節子	消費者運動連絡会推薦者
寺島 芙美子	コミュニティ研究連絡会推薦者
渡部 敏夫	環境生活部環境政策担当部長

ごみ減量協議会(第1期・2期)から提出された主な提言内容

生ごみ部会

- ・コミセンへのコンポスターの普及...クリーンむさしのと協力して実施中
- ・クリーンセンター内コンポストガーデン...クリーンむさしのと協力して実施中
- ・ダンボール法(生ごみ活かす君)の普及...クリーンむさしのと協力して実施中
- ・生ごみ堆肥化パイロット事業...庁内プロジェクトで検討中

紙部会

- ・新聞販売店の自主回収
- ・集団回収の拡大...22年度予算額を増やし、拡大予定。
- ・年賀はがきの郵便局自主回収...指導しているが実現に至っていない。指導を継続
- ・コミセンへの市配布資料の見直し...今後の課題

容器包装部会

- ・レジ袋削減...レジ袋削減会議による検討を行い提言が提出された。22年度は提出された提言に基づき実行する。
- ・容器包装の店頭回収をすすめる...ごみニュース掲載等で広報している。
- ・環境優良店の認定の仕組みの検討...今後の課題
- ・プラ回収方法の見直し...今後の課題

全体会

- ・行政収集回数を見直し...今後の課題

レジ袋削減会議

市では、これまで、レジ袋削減の取組みとして、レジ袋使用事業者懇談会やマイバッグキャンペーンを行ってきました。より具体的に削減の方法や実現するための仕組みの構築等について検討するために、ごみ減量協議会から提出された提言に基づき、平成21年1月にレジ袋削減会議を設置し議論しています。

大半がすぐにごみとして捨てられてしまうレジ袋を削減することで、ごみの減量を実現するとともに、「不要な物はもらわない」という意識を根付かせ、使い捨てのライフスタイルそのものを見直すきっかけとするために、学識経験者、市民、事業者、行政で協議し、平成22年3月に提言書が提出されました。

・レジ袋削減会議委員（敬称略） 委員長 副委員長

委員氏名	備考
大江 宏	亜細亜大学教授
野田 浩二	武蔵野大学助教
川添 勇二	株式会社グルメシティ関東
保母 錠治	株式会社京王ストア
松井 玉	プラザスタイル株式会社吉祥寺サンロード店長
濱中 洋子	セブンイレブン武蔵野関前4丁目店長
富岡 光	中央通り西祥会会長
加藤 慎次郎	株式会社加藤商事武蔵野支店長
白石 ケイ子	ごみ減量協議会委員
南 みずほ	環境美化推進員支部長
三輪 博行(～平成21.3) 渡部 敏夫(平成21.4～)	武蔵野市環境政策担当部長

主な提言内容

レジ袋削減の基本方針

1. 市民一人ひとりの環境意識を変えることを目指す。
2. 市全体で底上げを図り、レジ袋辞退率60%を目指す。
3. 市内各地域の実情やさまざまな店舗形態にあわせ、できるところからレジ袋の削減に向けた取組みを進め、幅広く多様な店舗形態の参加を図り、ひとつひとつ積み上げていく。
4. 市内店舗を回ってのプチエコ活動普及など、顔のみえる関係を大切に、情報交換、事業者の支援等を進める。
5. 事業者の取組み、武蔵野市の取組みを、チェック・評価していく仕組みをつくる。

市民・生活者の意識を変化させるための取組みの推進

- ・市及び市民（市民団体）は、市民の環境学習の機会を充実し、レジ袋削減を積極的に取り上げる。
- ・市及び市民（市民団体）は、コミュニティセンター、PTA、青少協などの地域団体と力をあわせて、啓発を進める。
- ・市は、クリーンむさしのを推進する会、環境美化推進員、市内大学生等とこれまで同様に連携・協働し、啓発事業や店舗への啓発活動等を進める。
- ・市及び市民（市民団体）は、今年度実施したキャンペーンの成果を参考に、商店会と市との協働事業による取組みを含め、今後も啓発イベント等を実施する。
- ・市は、レジ袋代わりに購入できるように、現在10枚1組のセットで販売している「市指定有料ごみ処理袋」のばら売りを検討する。

事業者におけるレジ袋削減の取組みの促進

- ・事業者、市、市民（市民団体）は、経済状況の厳しい中、全体の底上げを図ることを主眼として、業態ごとに柔軟に、丁寧な声かけとセットの値引き等効果の高い方策について積極的な拡大を目指す。
- ・市は、クリーンむさしのを推進する会等の市民団体等と協力し、コンビニエンスストアなど個店を啓

発し、プチエコ活動の普及に取り組む。

- ・事業者、市、市民（市民団体）は、最も効果的な手法であるレジ袋の有料化(無料配布中止)についても、今後も引き続き実施店舗の拡大を目指す。
- ・ごみ減量協議会及び市は、事業者と協定を締結し、各事業者はレジ袋削減の具体的な目標を計画書の形で示す。
- ・ごみ減量協議会及び市は、継続的に事業者懇談会を開催する。

事業者の評価と情報の公表

- ・市、市民団体は、広報や既存の制度（エコパートナー等）及びイベントの機会を活用するなどして、積極的に取り組む事業者を評価し、支援する。
- ・各事業者は、レジ袋削減目標の達成状況などを公表し、市はそれをもとにデータを分析して施策を検討する。
- ・市は、ごみ減量協議会、廃棄物に関する市民会議や環境市民会議等で、事業者の評価とレジ袋削減状況等について報告する。

資源物集団回収事業

武蔵野市では、古紙類や古着・アルミ缶等をごみとして排出せず、資源物として回収することで、資源の有効活用とごみの減量並びにごみ問題に対する市民の関心を高めることを目的に、市内の住民団体等による集団回収事業の運営を推進しています。実施団体に対しては1kg当たり10円、その回収業者に0.5円（布類のみ2円）の補助金を年2回に分けて交付しています。

この事業の主旨を実施団体の加盟員に周知・理解していただくため、説明会や研修会を開催するとともに、広報紙の発行や、活動を推進するために必要なのぼり旗等の貸し出しや団体発行の広報紙等の印刷、自主的な研修や活動に対する相談や支援等を行なっています。

平成21年8月現在、161団体と20業者が市に登録し、地域での資源物回収を実施しています。

(1) 交付補助金額（平成20年度実績）

	団体数	参加世帯数	補助金額総額
団体	157団体	19,450世帯	32,183,590円
業者	16社		1,655,120円
合計			33,838,710円

* 団体には事務費補助として年額4,000円があわせて支給される。

(2) 回収数量

品目	回収数量 (kg)	構成比 (%)	品目	回収数量 (kg)	構成比 (%)
新聞	1,880,041	59.6	アルミ・スチール缶	33,712	1.1
雑誌	832,890	26.4	ビン・ガラス	8	0.0
ダンボール	303,105	9.6	牛乳パック	17,564	0.5
ポロ布	86,830	2.8	その他	2,009	0.0
			合計	3,156,159	100.0

(3) 資源化率

資源物集団回収事業による平成20年度の回収・資源化量は約3,156トンで、武蔵野市のごみ発生量の約6.3%が資源物集団回収事業により資源化されたことになっています。

クリーンむさしのを推進する会

市では、全市的な規模で組織された環境市民団体「クリーンむさしのを推進する会」に補助金を交付し、その活動の支援を行っています。

同会は、地域においてごみ減量・資源化への協力、リサイクル活動、集会の開催など積極的な活動を市と協調、連携しながら行っています。また、生ごみ処理容器の普及斡旋なども行っています。

クリーンむさしのを推進する会の主な活動

・定期集会の開催

定期総会 年一回

地域集会 12会場 12地域 467名

役員会（年12回）、支部長会（年7回）、地域活動（12支部）、施設見学研修（年4回）

各イベントへの参加

イベント名	実施日	開催場所	備考
さくらまつり	平成20年4月6日(日)	むさしの市民公園	
環境漫才	平成20年5月2日(金)	武蔵野公会堂	
ごみゼロデー	平成20年6月1日(日)	市内3駅周辺	
落書き 消しちゃん隊	平成20年6月19日(木) 平成20年12月2日(火)	吉祥寺駅北口	
マイバッグ キャンペーン	平成20年7月5日(土) 平成20年8月5日(火) 平成20年9月5日(金) 平成20年10月5日(日) 平成20年11月5日(水) 平成20年12月5日(金) 平成21年2月5日(木) 平成21年3月5日(木)	・エコスタいらや武蔵境店 ・グルメシティ武蔵境店 ・三鷹東急ストア ・プラザ吉祥寺サンロード店 ・京王ストアむさしの店(10月より)	
打ち水大作戦	平成20年8月11日(月) ～8月15日(金)	各地域	
むさしの青空市	平成20年11月9日(日)	むさしの市民公園	
市内一斉清掃	平成20年11月30日(日)	市内全域	
朝一番隊	毎週日曜日 (ごみゼロデー、市内一斉清掃及び年末年始を除く。)	市内3駅周辺	午前8時から1時間の清掃活動。
ごみ分別相談所	平成21年3月31日(火) ～4月2日(木)	市役所ロビー	来訪者 172名

・環境にやさしい買物キャンペーン

実施日 平成20年10月1日～31日

共催 武蔵野市、商店会連合会

内容 横断幕の掲示(吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅)

ポスター掲示(スーパー、コンビニエンスストア、商店、掲示板、会員宅など631枚。

・まつりの飲食容器の脱プラスチック化（バカス）及びリユース食器の使用

イベント名	バカス	リユース食器	備考
桜まつり	5,000枚		5年目
地域夏まつり	3,350枚		6年目
国際交流まつり	4,400枚	2,600個	4年目 リユース食器を亜細亜大学 食堂より2,200個借用
青空市	500枚		5年目
コミセン（まつり、文化祭）	4,300枚	200個	5年目
中部ふれあいまつり	4,200枚		4年目
武蔵境ピクニック	500枚		2年目
障害者センターまつり		100個	2年目
合計	22,250枚	2,900個	17ヶ所

・フリーマーケットでのごみ減量アピール

日 時 10月19日（日）10時～14時（ごみ総合対策課主催フリーマーケットと同時開催）

テーマ ごみ減量アピールとクリーンむさしのを推進する会の活動紹介

堆肥を利用した市内の農家の野菜販売

生ごみ堆肥を利用した野菜の苗・落ち葉の腐葉土や生ごみ堆肥（トーヨー2号）の配布

お茶碗の回収

紙クイズ（再生紙トイレトペーパーとティッシュの販売）

エコクッキングのアピール、エコカフェ

子どもコーナー（エネルギー、フードマイレージ）

ごみ相談コーナー

レジ袋アンケート

その他

・専門部会、サークル活動

クリーンむさしのを推進する会の基本問題の検討、生ごみチームでの生ごみの資源化の活動、マイバックチーム、割り箸チームなど専門部会、サークル活動等は、年間を通じて実施。

平成15年度より専門部活動の位置付けを明確にした上で、組織のあり方や会員の役割、各種集会の見直し、会則の整合性を図る目的で企画部を新たに設置した。

・陶磁器リサイクル

回収場所（各コミセン）

・常設・・・西久保、けやき、南町、東町、北町、中央、境南

・随時・・・緑町、吉祥寺西

回収量 3,465kg

・生ごみ処理容器の斡旋

昭和59年より実施

平成20年度斡旋台数 コンポスター7台 バイオカプセル4台

環境美化推進員制度

条例に基づき、廃棄物の発生の抑制・減量・地域環境の美化等自ら実践するとともに、市の施策への協力及び提言、その他の活動を目的として、市長が委嘱しています（第7条）。

個人の活動が基本ですが、各町ごとに年間活動計画を策定し、定例会などでの情報交換を通して目的達成のための取り組みを進めています。

任期（8期目） 平成20年4月1日～平成22年3月31日（2年任期）

推進員数 90名（丁目ごとに2名）

環境美化推進員の主な活動

環境美化タウンウォッチング及びタウンクリーニング（清掃活動）の実施	市内13地域
タウンウォッチング報告書の作成	
市職員との協働タウンクリーニング（清掃活動の実施）	市内13地域のうち、2地域ずつ実施
研修の実施	夏季ごみ関連施設見学研修会（加藤商事、ニッ塚処分場） 秋季研修 講義「不法投棄、ふれあい収集と狭隘道路収集の現状」 講師 市職員 冬季研修 地域活動交流会
ごみ分別・減量の啓発活動	市主催事業への協力活動 ・ごみゼロデー・市内一斉清掃 ・喫煙マナーアップキャンペーン ・不法投棄監視ウィーク ・ごみ分別案内所 ・夏季、秋季、年末ごみ減量キャンペーン
各地域での活動	・コミセン広報への記事掲載・パトロール ・地域のお祭りでのごみ分別指導等

ごみ減量・資源化推進プロジェクトチーム

「（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会」より、非焼却処理、市内分散処理、他市間広域連携などの可能性を探るべきとされ、生ごみ・剪定枝葉等のバイオマス資源化パイロット事業を行うよう平成 21 年 6 月提言を受けました。また、「第 2 期ごみ減量協議会」より、生ごみ、紙、容器等の減量に向けた取組み等について提言を受けました。

本市のごみ処理の基本的方針を定める平成 20 年 3 月策定のごみ処理基本計画では、平成 29 年までに 5000 t のごみ（焼却ごみ量）を削減する計画としています。ごみ減量・資源化推進プロジェクトチームは、このような状況の中、上記検討委員会及びごみ減量協議会からの提言を踏まえ、本市におけるごみの減量及び資源化を効果的に推進していくための方策を検討し、実施していくため、平成 21 年 7 月に設置されました。

設置期間：平成 21 年 7 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日

任 務：プロジェクトチームは、次に掲げる事項について検討を行う。

- ・市内におけるごみの減量及び資源化を促進するための事業の実施方法等に関すること
- ・市民におけるごみの減量及び資源化を促進するために必要な啓発活動に関すること

参加部署：クリーンセンター、ごみ総合対策課、環境政策課、緑化環境センター、生活経済課（農政係）

生ごみ部会、剪定枝葉部会、市民協働型パイロット事業部会を設置しました。

生ごみ部会

平成 22 年 3 月よりクリーンセンターに持ち込まれた剪定枝木を集積し、資源化業者に搬送しています。現在は確認実験として課題の抽出等を行っており、持続的な取り組みとするための仕組みを検討中です。

剪定枝葉部会

平成 22 年 6 月頃に、市内数箇所では生ごみの分別収集実験を行い、家庭から出される生ごみの分別収集・資源化に向けた課題を抽出します。

市民協働型パイロット事業部会

市内の家庭から出される生ごみを地域内で堆肥化し、その堆肥を使って同一地域内に設置する畑（コンポストガーデン）で作物を作り、地域内循環を図る市民参加型のパイロット事業を実施すべく検討中です。